



土浦市イメージキャラクター
つつまる

餅つきの由来について

餅つき大会2023in小松：参考資料

小松一、二、三丁目町会
出典：「四季を楽しむ イベント」より
<https://kengkong.xyz/motituki-child/>



本日は、餅つき大会にご来場いただき大変ありがとうございました。ご家族の方や地域の方とのお話も含め、楽しんでいただけましたでしょうか。今は餅つきそのものを見ることも少なくなりました。更に、杵や臼での餅つきはめったに体験できることではない時代になりました。是非、ご自宅でも今日のイベントの話題で盛り上がっていただけたらと思います。

本資料は、そのような時に話題の一つになればと考え、作成しました。伝統行事である「餅つき」の由来を知ることにも意味のあることではないかと考えます。ご家庭で是非お話ししていただければと思います。



今は餅つきを見ることはめったになくなりました。それでも、大晦日に鏡餅を飾ったり、正月には家族でお餅を焼いたり、お雑煮に入れたりして食べています。

なぜ、餅つきをしたのでしょうか？お正月にお餅を食べるのはなぜでしょうか？今回は餅つきの由来や意味を調べてみました。

「餅つきの由来は？」

日本人は古くからの農耕民族であり、稲は「稲魂」や「穀霊」が宿った神聖なものだと考える稲作信仰がありました。稲からとれる米は、人々の生命力を強める神聖な食べ物であり、米をついて固める餅や、米から醸造される酒はとりわけ神聖な力が強いとされています。

餅の語源は、持って出るという意味で「持ち飯（もちいい）」だという説や、粘るという意味で「糯（もち）」を使った「糯飯（もちいい）」という説があります。「もちいい」という名称が「毛知比（もちひ）」に変わり、17世紀には「毛知（もち）」へと変化しました。





また、「望月（もちづき）」の望（もち）であるという説もあります。望月とは満月のことで、円の形が円満を連想させるということで、縁起が良いとされました。だから、祭りのときには、月や太陽に見立てて餅を丸くし、願いを込めて食べていたとも言われています。

そのことから餅は、ハレの日（晴れ：特別な日、お祭りの日）の特別な食べ物とされていました。三月のひな祭りにはひし餅、五月には柏餅、十月には亥の子餅、お祭りでは餅まき、というように何か行事があるたびに餅つきをしました。

餅つきは一人ではできないため、連帯感を高め、喜びを分かち合うという意味合いもあるようです。正月は最も大事な年中行事として、一年で一番重要な意味がこめられた餅がつけられました。



「正月の餅つきには2つの意味がある!？」

年末からお正月にかけての餅つきには、旧年中の鏡餅の準備と、新年に入ってからのお雑煮にのせる餅を作る2つの意味があるようです。それぞれの由来をまとめてみました。



鏡餅をつくる、餅つきの意味

年末の餅つきは、鏡餅を準備するためです。これは、正月に訪れる神様である歳神様（としがみさま）をお迎えし、「新しい年が幸せでありますように」とお祈りします。

その歳神様をお迎えするためにつくる料理が、おせち料理です。そして、歳神様がお正月の間に落ち着く居場所として、神社のご神体になぞらえた鏡餅がつけられます。

この鏡餅を準備するための餅つきは古くから行われており、奈良時代には神社に鏡餅がお供えされていたようです。

一年を見守ってくださる神様に捧げる餅ですから、餅つきは一家総出で行う大切な行事でした。





お正月に食べる、餅つきの意味



鏡餅と違い、お正月にはお餅を焼いて食べたり、お雑煮に入れたりします。このお餅の由来は稲作農家の食文化にあるようです。

農民の間では、餅つきの由来にもあったように、お祝い事やお祭りのたびに餅つきをしていました。稲作信仰に見られるように、餅には神の力が宿り、生命力が与えられると言われてきました。「神様と同じものを食べて、神様の力を分けていただく」という意味合いがあるようで、餅を食べることは、とても縁起のいいことだったのだと思います。

昔の農民のお年玉は、お金ではなくて、丸いお餅を振舞っていたと言われます。神様からの魂（お年魂⇒お年玉）をいただく料理が、お正月に食べるお雑煮です。このお雑煮に入れる丸餅は、新年を迎えてからも、おめでたいという理由で餅つきが行われます。

そして、新年だけではなく、年中おめでたい時には餅つきが行われる風習が今でも残っています。

餅つきをするのに良い日はあるの？

正月飾りと同じように、お正月に向けた餅つきでは、縁起を担ぐようになりました。基本的には、29が「二重苦」につながることや、29の9が「苦餅」「苦持ち」になってしまう、「苦をつく」ことから九日餅といって忌み嫌うなどの理由で、12月29日は避ける習わしがあります。ただし、29を「ふく」と読み、12月29日についた餅を「福餅」と呼んだり、福が来るよう29日に飾るところもあります。

また、12月31日は葬儀と同じ一夜飾りになることから、鏡餅などの正月飾りは30日までに飾る習わしがあります。従って餅つきも31日にするのは縁起が悪いとされています。

正月の餅つきを、簡単にまとめると

ここまでで餅つきについてわかったことを、簡単にまとめると、餅は特別な食べ物で、行事のたびに餅つきをしてきたこと、正月の餅つきには2つの意味があり、

一つは、正月に訪れる神様への鏡餅の準備、もう一つは、神様の力を分けていただく、お正月に食べる餅の準備、であることがわかりました。そこで、子供には次のように話してみてもいいでしょう。





「子供にわかりやすく教えるには？」

「お餅は、昔から縁起のいい特別な食べ物なので、行事のたびに餅つきをしてきました。また、お正月は、1年の始まりなので、1番大切な行事として、お餅にも大きな意味を込めて来ました。」

「一つは、お正月にやってくる神様を迎えるために、前の年のうちに鏡餅をつくるための餅つきをしました。丸い形をした昔の鏡を神聖なお餅で表すようになり神様は、鏡餅のあるところに来てくれると考えました。だから、鏡餅の前では、『神様、去年はありがとうございました。今年もよろしくおねがいします。』と心の中で伝えましょう！」

「そしてもう一つは、縁起のいいお餅を食べることで、神様の力を分けていただけます。だから、お正月に食べるお餅をつくるために、餅つきをしました。お正月にはお餅をしっかり食べて、神様から元気をもらいましょう」

このようなことを、やさしい言葉でお子様にお話していただけたらいいでしょうか？



「おわりに」

単純に、鏡餅を置くことは当たり前、正月にお餅を食べることは当たり前・・・、と考えていたのですが、その由来や意味を知ると餅つきという伝統行事を大切にしていきたいと思いました。

子供たちにとっても、その意味を理解し興味を持つことは非常に大切なことだと考えます。参考にいただければ幸いです。



土浦市イメージキャラクター

つちまる

